

スマホの音声認識システムを導入し、カルテ記録時間短縮(DX)への取り組みと成果



社会医療法人鴻仁会 岡山中央病院

○近藤智哉、石井陽祐、渡邊伸作

概要

■スマートフォンの音声認識システムを導入したことで以下の2点の良好な成果が得られた

- ① カルテ記録の時間短縮
- ② スタッフの仕事負担量の軽減

背景

- DXに取り組み、患者さんにより良い医療を提供する
- スマートフォンの音声認識システムを導入して、間接業務を効率化し、個別リハビリの時間を増やしていこう、という話が進んだが・・・

	一日の大まかなスケジュール
8:30	朝礼、情報収集、書類作成など
9:20	個別リハビリ(4~6名)
12:00	カルテ記録(15分)
12:15	昼休憩
13:00	個別リハビリ(5~7名)
17:00	カルテ記録、書類作成
20:00	終業

背景

- そもそも急性期リハビリ部門では、個別リハビリは業務時間内でほぼ最大限確保されていた

	一日の大まかなスケジュール
8:30	朝礼、情報収集、書類作成など
9:20	個別リハビリ(4~6名)
12:00	カルテ記録(15分)
12:15	昼休憩
13:00	個別リハビリ(5~7名)
17:00	カルテ記録、書類作成
20:00	終業

背景

■カルテ記録は業務時間外に行うことが多い

⇒スタッフの身体的・精神的な負担

	一日の大まかなスケジュール
8:30	朝礼、情報収集、書類作成など
9:20	個別リハビリ(4~6名)
12:00	カルテ記録(15分)
12:15	昼休憩
13:00	個別リハビリ(5~7名)
17:00	カルテ記録、書類作成
20:00	終業

目的

■スマートフォンの音声認識システムは導入されてしまっていたので・・・

⇒カルテ記録の時間短縮を図る

⇒スタッフの負担軽減を目指す

	一日の大まかなスケジュール
8:30	朝礼、情報収集、書類作成など
9:20	個別リハビリ(4~6名)
12:00	カルテ記録(15分)
12:15	昼休憩
13:00	個別リハビリ(5~7名)
17:00	カルテ記録、書類作成
20:00	終業

方法

■前提条件

- スマートフォンの音声認識システムを使用
- 端末はスタッフ1名に対し1台ずつ配布
- システムの運用とデータ収集期間は2021年8月～2022年12月
(※取り組みを完遂できたのは13名中9名)

■効果判定方法

- システム導入前と導入後でのカルテ記録時間の比較
- システム導入後に仕事負担量に関するアンケートを実施

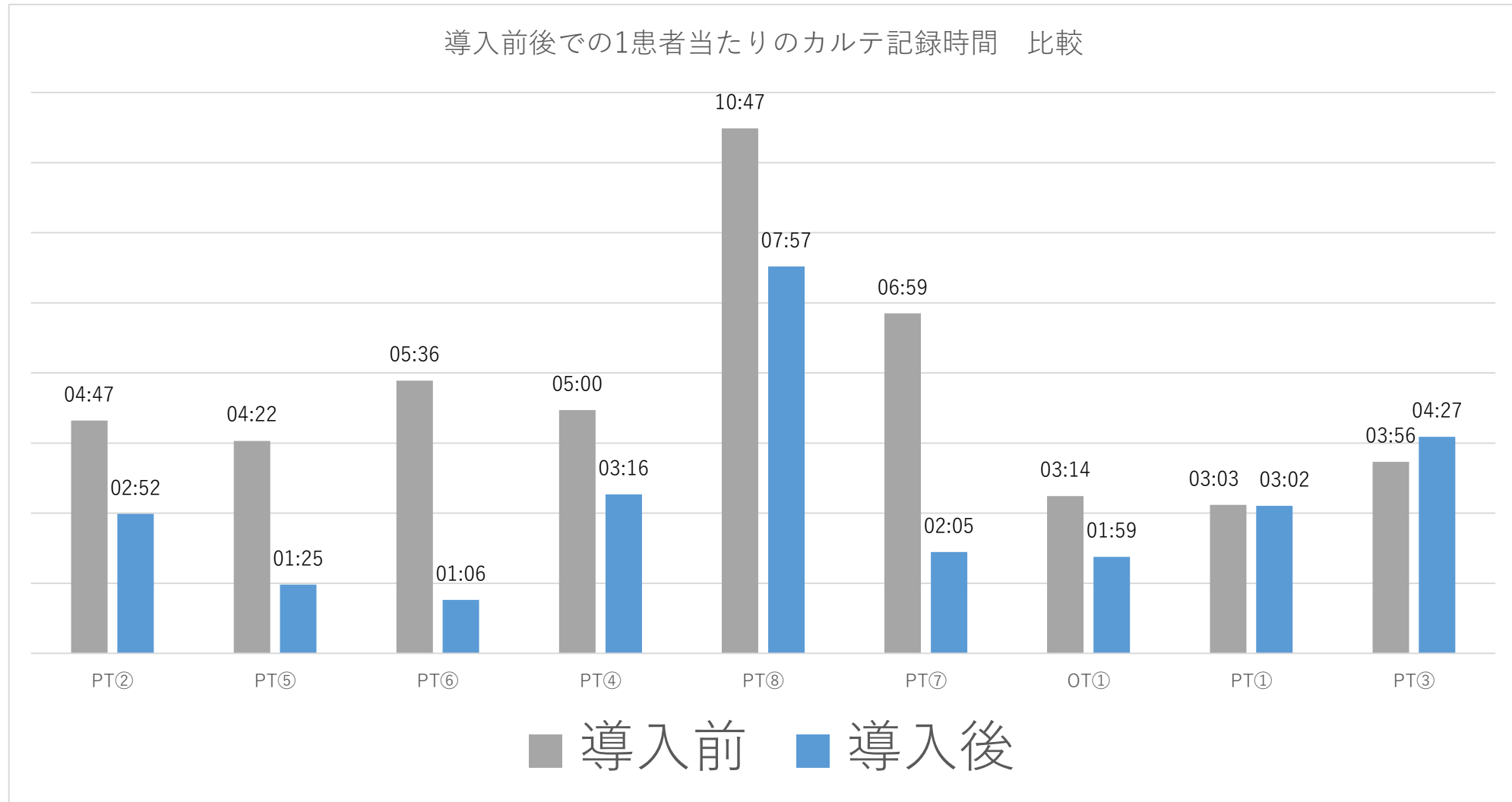
結果

■音声認識システムを導入することで以下の2点の良好な成果が得られた

- ① 1患者あたりのカルテ記録時間が2分程度短縮できた
- ② アンケート結果より大半のスタッフが仕事の負担軽減を実感

結果①

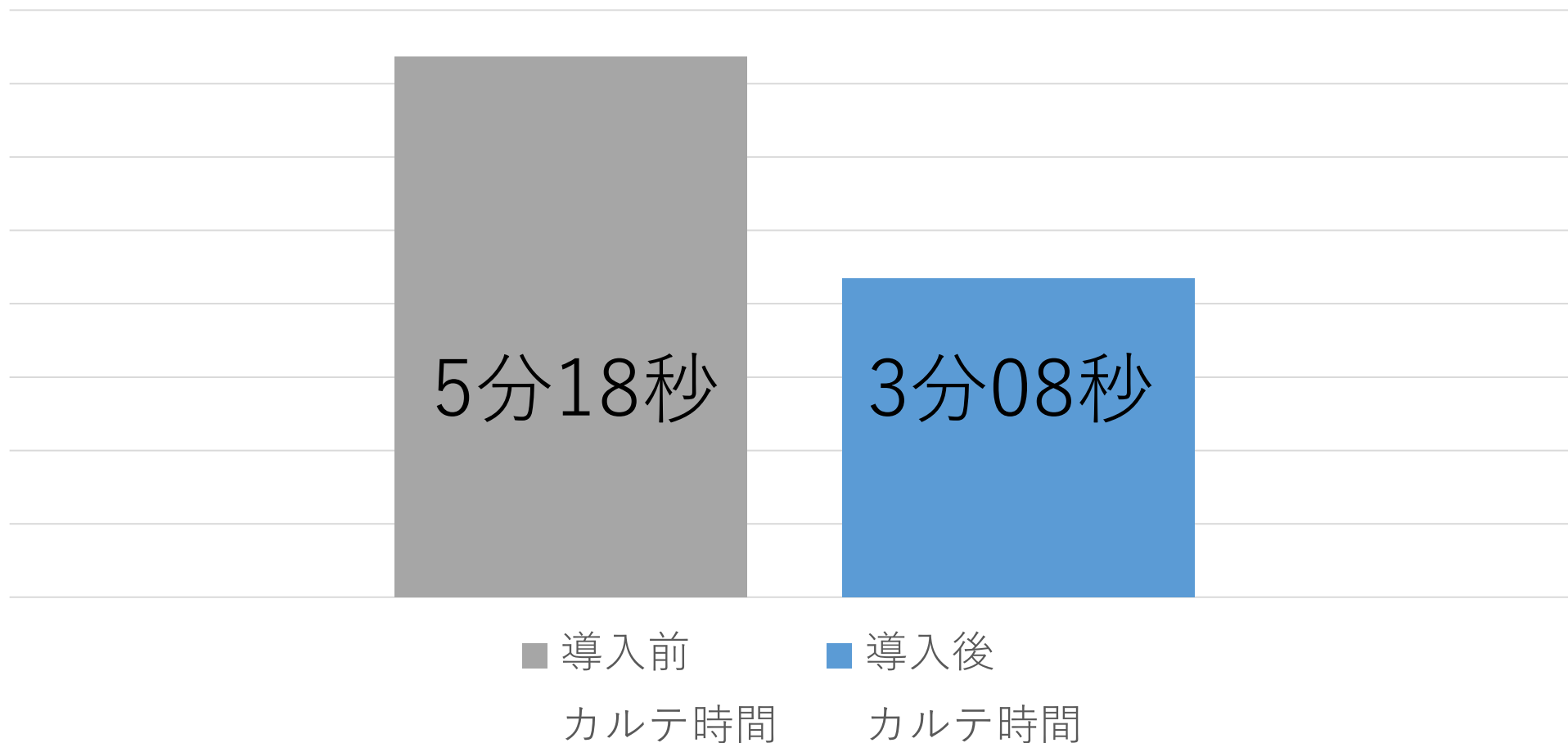
どのスタッフも概ね時間短縮効果あり



結果① 補足

全スタッフ平均で1患者あたり2分程度の短縮

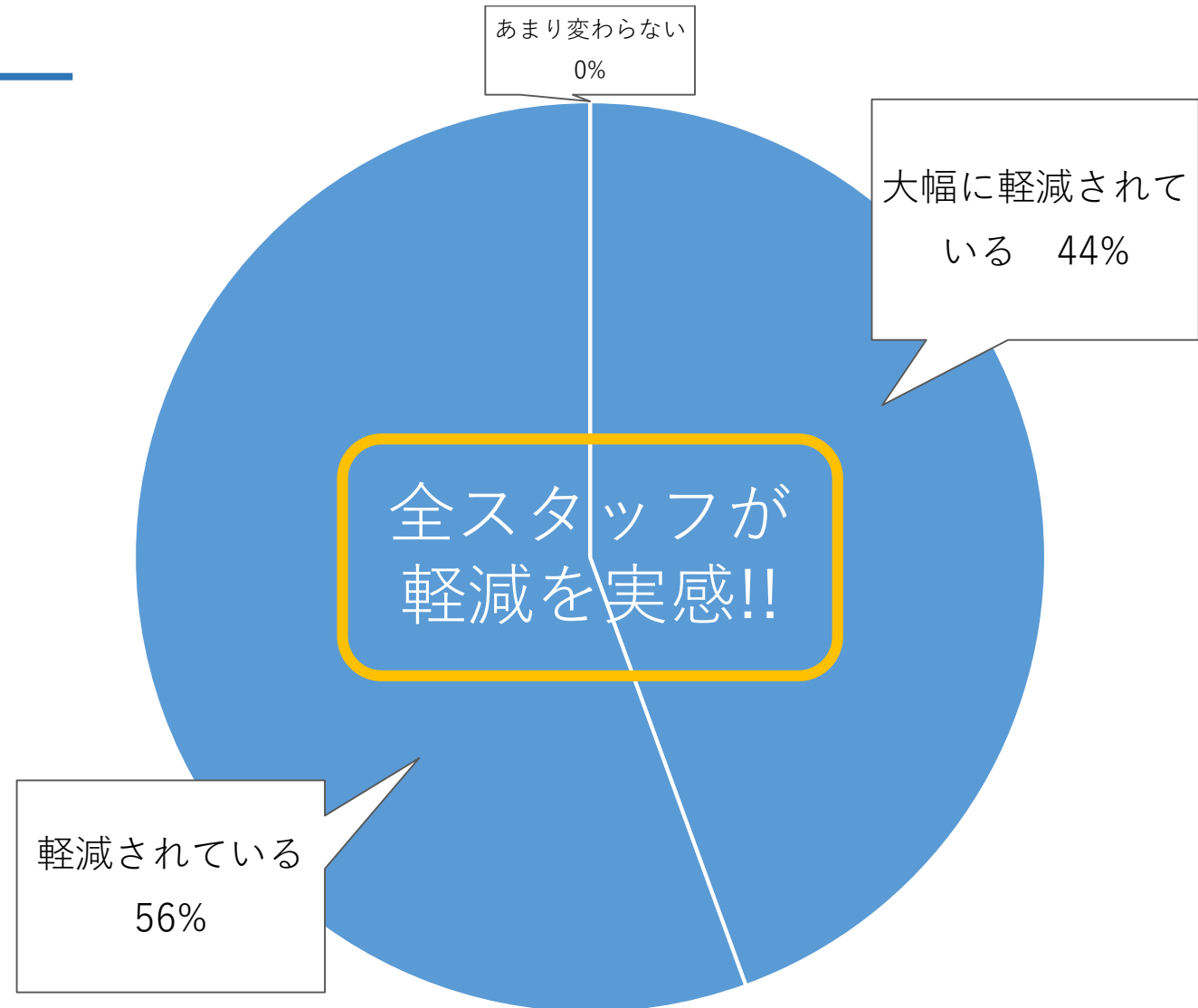
導入前後での1患者当たりのカルテ記録時間 比較



結果②-1

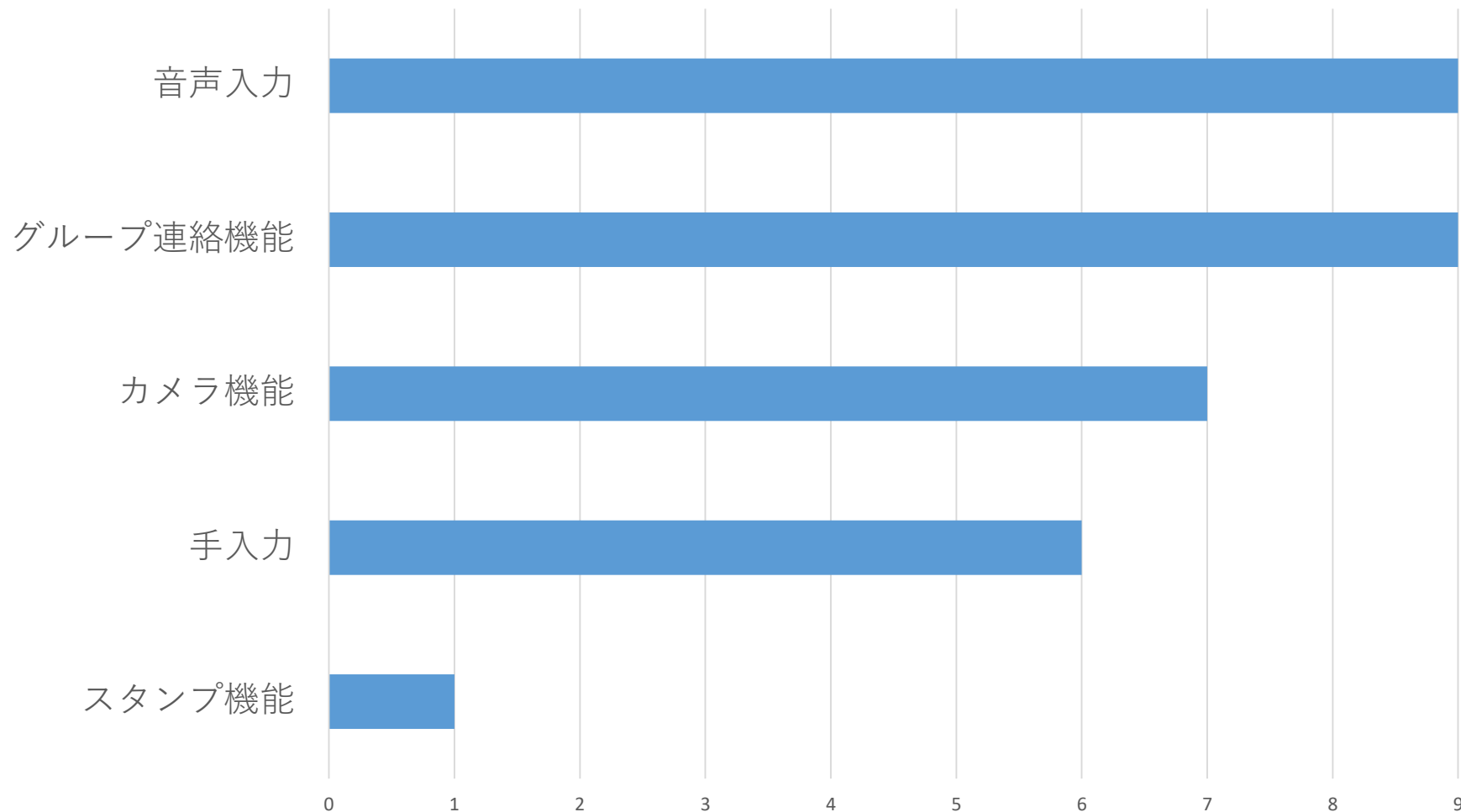
Q1.仕事の負担が軽減されていると感じるか？

⇒A.全スタッフが軽減されていると実感



結果②-2

Q2.音声認識システムの中で便利だと思う機能は何ですか(複数回答あり)



考察

■良好な結果につながった主な要因

- 音声認識システムを使用することで移動中も記録ができる
- 音声認識システムの手入力機能でいつでもカルテ記録ができる
- スマートフォンの各種機能、アプリの利便性が高い

まとめ

- ◆導入された音声認識システムの運用を通じてDXの効果を実感
- ◆工夫して運用してくれるスタッフと取り組むことで、様々な効率的な方法を検討しながら運用を進めることができた
- ◆今後もDXの取り組みを進め、患者さんやスタッフに役立つ取り組みを模索していく